

## 多文化共生社会への虹の架け橋

関連する主な人権課題：外国人

近年のグローバル化の進展の中で、兵庫県においては、現在、約140カ国、10万人を超える外国人県民が居住しています。また、県内の公立学校には、約20カ国、3,700人を超える外国人児童生徒が在籍しています。しかし、日本語理解が不十分なことに加え、文化や生活習慣の違いなどが原因で、疎外感を感じるなど、様々な課題を抱えながら生活している外国人県民や外国にルーツをもつ県民も少なくありません。

すべての人が互いを尊重し合い、多様な文化的背景をもつ人々と豊かに共生する社会の実現に向けて、何が大切なのかを考えてみましょう。

### ●研究課題

(1) 外国人県民の現状や課題について調べてみましょう。

#### 【ポイント】

- ・外国人県民の渡日理由を調べてみましょう。
- ・日本語理解が不十分なことにより、日常生活にどのような影響があるのかを調べてみましょう。

(2) 外国人児童生徒を支援する取組について調べてみましょう。

#### 【ポイント】

- ・兵庫県教育委員会の「子ども多文化共生サポーター派遣事業」など、日本語支援が必要な外国人児童生徒に対する取組を調べてみましょう。
- ・地域の国際交流協会や特定非営利活動法人(NPO)、ボランティアグループの活動について調べてみましょう。

### ●活動課題

(1) 地域の多文化交流フェスティバルやボランティア活動に参加してみましょう。

#### 【ポイント】

- ・様々な国の料理を作ったり、衣装を試着したりしてみましょう。
- ・体験をもとに、地域の外国人県民との交流イベントを企画してみましょう。

(2) 駅やコミュニティセンター、避難場所などで、多言語の案内や掲示の設置状況を調べてみましょう。

#### 【ポイント】

- ・どのような情報が提供されているか、確認してみましょう。
- ・外国人県民が安心して暮らせる地域づくりに向けて、自分たちに何ができるかを話し合ってみましょう。

### ●ケーススタディ

幼いときに渡日し、県立学校を卒業した外国人生徒の手記とタイムラインを参考にして、「自己実現と共生」をテーマにして、話し合ってみましょう。

#### 「人と違うこと」

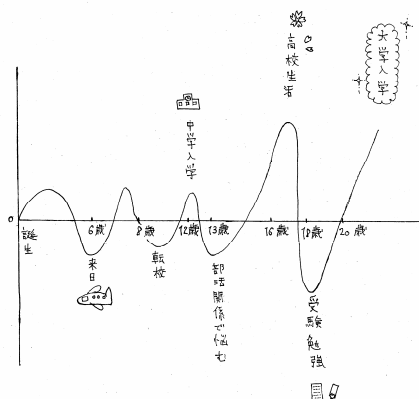
私は、ロシアに生まれ、6歳のときに日本に来た。小学校は普通の日本の学校に、中学・高校は6年一貫の学校に通った。この2種類の学校を経験したことが、私の考えを大きく変えた。

小学校のころ、特に大きな差別を受けるようなことはなかった。しかし、自分とまわりのちょっとした違いがずっと気になってきた。たとえばお弁当。みんなのお弁当には細かいおかずが数種類とご飯が入っていたのに対し、私のは、じゃがいも1品だけが入っているなど、みんなのお弁当とは全くちがっていた。それを見て驚かれるのがはずかしかった。また、街中でも「外人だ！」と指をさされるのが嫌で、髪を黒く染めようかと思うこともあった。とにかく、みんなと同じようになりたくて、自分だけ違うことを恥ずかしく思っていた。

その考えが変わり始めたのは、中高一貫校に入ってからである。そこには海外での滞在経験を持つ日本人や、外国人が集まった。パキスタン人が宗教の関係で断食をしたり、ペルー人のお弁当が日本のものとは全く違っていたりしたが、みんなそれを隠すことなく堂々としていて、お互いの違いを自然に受け入れていた。それを見ているうちに、それぞれの生まれ育った環境や文化、見た目は違うけれど、それは一つの個性であって、それを隠したり、無理に変えたりする必要はないのだと考えるようになった。

これからはますます国際化が進み、日本で生活する外国人が増えていけよう。もっとお互いを理解しあって、受け入れていく社会を作っていかなければならないと思う。

#### 【タイムライン】

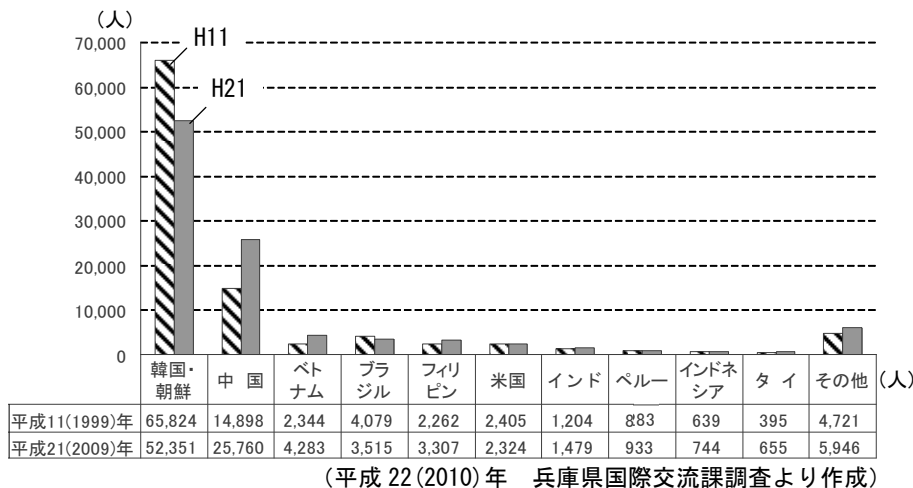


●子ども多文化交流フェスティバル 2007

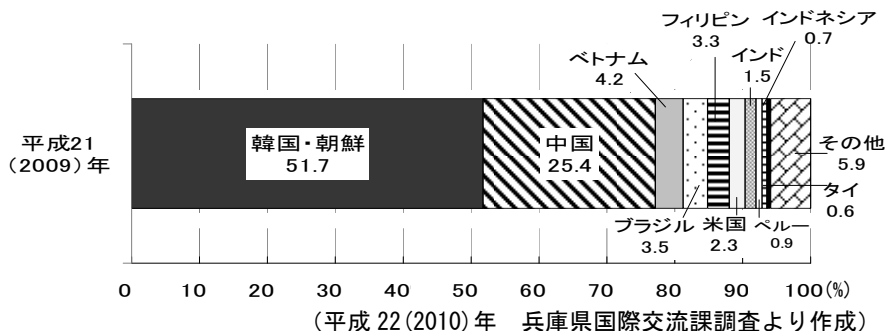


(クアドリーリアダンス (関西ブラジル人コミュニティ))

●県内の外国人登録国籍別人員数の推移



●県内の外国人登録国籍別人員割合 (平成21(2009)年)



●関係機関等

- (1) 子ども多文化共生センター
- (2) 独立行政法人 国際協力機構 (JICA兵庫)
- (3) 公益財団法人 兵庫県国際交流協会
- (4) 神戸地方方法務局
- (5) 文部科学省 CLARINET

- <http://www.hyogo-c.ed.jp/~mc-center/>  
<http://www.jica.go.jp/hyogo/>  
<http://www.hyogo-ip.or.jp>  
<http://houmukyoku.moj.go.jp/kobe/frame.html>  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/main7\\_a2.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm)

キーワード解説

▼ アイデンティティ

「国・民族・組織などある特定集団に属しているという意識」「特定のある人・ものであること」などの意味で用いられる言葉。自分が自分である、というはっきりとした意識を持っている状態のことで、自分は、他の誰でもなく自分自身であり、現在の自分が何者であるかを自覚すること、自分を発見することを「アイデンティティの確立」という。

▼ 多文化共生

「多文化共生の推進に関する研究会」(総務省)は、その報告書[平成18(2006)年]において、地域における多文化共生を「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」としている。

▼ 子ども多文化共生教育

「ひょうご教育創造プラン(兵庫県教育基本計画)」において、「『外国人児童生徒にかかわる教育指針』に基づき、すべての児童生徒が互いに尊重し合い、多様な文化的背景を持つ人々と豊かに共生する心を培う子ども多文化共生教育を計画的・総合的に推進する」と示している。

▼ 外国人児童生徒にかかわる教育指針 [兵庫県教育委員会 平成12(2000)年]

外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒に多様な文化をもった人々と共生するための資質と実践的な行動力を育成することを目的に策定された。

▼ 出入国管理及び難民認定法 [昭和26(1951)年]

出入国管理制度(日本国への入国・帰国、日本国からの出国、外国人の日本国在留に関する許可要件や手続、在留資格制度、入国管理局の役割、不法入国や不法在留に関する罰則等)や「難民の地位に関する条約」「難民の地位に関する議定書」に基づく難民認定制度などを定めた法令。平成2(1990)年の改正により、外国人の在留資格が見直された。